

小林 浩

奈良県立医科大学 教授

IT を用いた双方向システムによる高齢者の在宅支援

本研究の目的は今後確実に増加する高齢者、在宅治療患者や終末期患者を対象とした在宅医療構築のための無拘束・無侵襲・リアルタイムの個人情報ネットワーク構築とかかりつけ医がどこにいてもネットワーク情報端末を利用して在宅患者情報を簡単に取得することができる簡易な機器で、双方向的に情報共有できる医療機器の開発を行うことである。

我々は高齢者用の医療監視（見守り）モニタ機器の開発を以下の 3 種類の方法を駆使して研究した。一つ目は生活音認識による安全・安心の見守り体制構築とその評価、二つ目は生活音認識で異常が発生したと判断されたときに在宅患者の体の動きや顔表情の変化を敏感に察知する監視用機器についての開発、そのためにコンピュータ内臓のテレビカメラを使い寝たきり老人の顔表情の変化をモニタする方法の評価、三つ目は睡眠中に無拘束、無侵襲で連続して記録できる非接触型心電図を装着したベッドあるいはウェア等の開発のための基礎研究を実施した。